

12月の農業情報

タイトル JAと夏期高温対策の遮光資材を比較

とき 令和6年11月18日(月)

ところ 豊川市御津町 イチゴ育苗ハウス

主体・対象 JAひまわり

内容

農業改良普及課は、JAひまわりと協力して、施設野菜生産者に高温対策の選択肢を示すため、今年の6～10月にイチゴの育苗ハウスを活用して遮光資材の比較試験を実施しました。①内部遮光（ダイオネット50%遮光）、②外部遮光（ワリフ明涼30）、③塗布剤（レディソルエキストラ10倍希釈）の3資材を比較した結果、①③よりも②でハウス内の温度及び鉄骨温度が低下したため、遮熱効果が最も優れていると判断しました。今後は、農業改良普及課とJAが費用、遮熱効果、伸展作業性や塗布の手間などを含めて総合的に比較し、生産者が選択しやすいように試験結果を取りまとめ、JA内の各部会組織へ試験結果を共有する予定です。



鉄骨の温度 左:外部遮光 右:内部遮光